

## 第2節「創る」 ～人と地域の夢や希望を実感できるために～

施 策	: 232	子育て支援策の推進
基本事業	: 23202	母子保健対策の推進

### 主な取組内容

・母子保健サービスを促進するため、市町の取り組みを支援するとともに、不妊に悩む夫婦に対する経済的支援および相談体制の強化に取り組みます。

## 1 母子保健事業

### (1) 子育て支援事業

家庭訪問・面接・相談

養育問題をもつ保護者への支援が虐待予防につながるとの観点から、医療機関から連絡のあったハイリスク児と母親に対して周産期からの支援を行いました。

対象: 未熟児出生連絡票の送付のあった低出生体重児及び病院NICUより退院連絡を受けた未熟児。小児慢性特定疾患児は、医療機関から訪問必要と連絡のあった児童などです。

(平成24年度)

	未 熟 児	障 が い 児	小児慢性特定疾患児
訪問実件数	76	29	27
訪問延件数	128	90	68

### (2) 思春期健康支援事業

思春期は、人間の一生において心身面の発達の変化の最も大きい時期です。この時期は、特有の身体や心に関する悩みなども多くみられ、それに対する対応が将来の結婚生活や健康に大きな影響を与えることから、電話相談を受け、助言を行いました。

## 2 母子保健医療

### (1) 医療給付状況

(平成24年度)

	育 成	養 育	小児慢性特定疾患
申請件数	158	77	304
給付決定件数	156	76	300
否決件数	2	1	4

## (2) 小児慢性特定疾患医療給付件数内訳

(平成24年度)

	津 市
悪性新生物	64
慢性腎疾患	17
慢性呼吸器疾患	24
慢性心疾患	39
内分泌疾患	90
膠原病	7
糖尿病	13
先天性代謝異常	10
血友病等血液・免疫疾患	16
神経・筋疾患	12
慢性消化器疾患	8
計	300

## (3) 特定不妊治療費助成用申請状況

(平成24年度)

申請数	336
承認数	336

### 3 妊産婦メンタルヘルス対策

#### (1) 目的

産後は、こころの病気の発生率が高く、とりわけ、産後うつ病は、妊産婦の10%以上が罹患すると言われていたにもかかわらず、その対策が十分に行われているとは言えません。

こうしたこころの病気の早期発見・早期治療・早期支援を行うことで、妊産婦のメンタルヘルスの向上を図り、安心してこどもを生み育てる環境を整えることは、児童虐待防止の観点からも重要なことです。産婦人科の協力を得て、出産直後（産褥入院中）の産後うつ病ハイリスク者のエジンバラ産後うつ自己評価票（以下「EPDS」）を用いてスクリーニングを行い、高得点者を中心にフォローを行いました。

#### (2) 事業内容

##### ア 個別支援

対象：津市内在住者で、管内協力産婦人科医院において出産された産婦に対して、産科退院までに、EPDSを実施し15点以上の産婦及び若年出産、経済困窮、母の精神疾患等で何らかの支援が必要と判断された母子

方法：情報を得られた母子に関して、家庭訪問等で支援を行う

実績：産婦人科等の連絡事例

(平成24年度)

種 別	EPDS高値	その他要因
紹介事例数	3件	13件

##### イ ママ元気ネットワーク会議の開催

産婦人科医や助産師との連携を深めることを目的に津市と共催事業として平成20年度から実施しています。

日 時	開催場所	参加者	内 容
平成24年5月31日 18時30分 ～20時00分	津市中央保健センター	産婦人科医師 助産師 市保健師 県保健師 計14名	・津市第2次健康づくり計画について～母子保健事業を中心として～ ・母子保健事業の市町移譲スケジュールについて ・平成24年度ママ元気ネットワーク会議について
平成24年8月30日 18時30分 ～20時00分	津市中央保健センター	産婦人科医師 助産師・市保健師 県保健師 計22名	・「児童虐待の現状と機関連携」 話題提供者 三重県中央児童相談所 鈴木 聡 所長 ・事例検討
平成24年11月22日 18時30分 ～20時15分	三重県津庁舎	産婦人科医師 助産師・市保健師 県保健師 計49名	・研修会 「産前産後の精神疾患に関する基礎知識と育児支援について」 講師 三重県立こころの健康センター 井上雄一郎 所長
平成25年3月14日 18時30分 ～20時00分	津市中央保健センター	産婦人科医師 助産師 市保健師 県保健師 計12名	・平成25年度母子保健事業の概要について ・平成24年度連携ケース概要について ・平成25年度ママ元気ネットワーク会議について